

ネットワーク社会における

3 C (Communication/Connection/Creation)の考察

ホームページ [E L E C T O N E - N E T] 主宰

山口隆啓

はじめに

最近のパソコンの普及には目を見張るものがある。1年間の出荷台数が700万とも800万とも言われ、私達の生活に否応なく入りこんでいる。

だがこれが音楽教育・普及・または電子オルガンとどのようにかかわりがあるのか？

という問いかけには残念ながら明快な答えは持ち合わせていない。

こと音楽に関して言えば、ビジネスワークに比べまだ特殊な世界であり、Windows 98でやっとMIDIがサポートされたような状態である。ただMP3に代表されるようにコンテンツのデジタル化という点では、音楽の注目度は高い。

一方見方を変えると、最近のパソコン導入者の意識調査では、目的がインターネットをやりたい、メールアドレスを持ちたいが上位で、以前のように仕事上、ワープロ・表計算の技術を身につけたいという割合は減少している。

これは何を意味するのか？

パソコンが従来の「文章を書く」「住所録を作る」「ゲームをする」というスタンドアローン型から、インターネットを中心としたコミュニケーションツールに変貌しようとしているのではないのか？そしてそこにはネット上の新しいコミュニティが存在するのではないのか？

キーワードはNET（蜘蛛の巣・網）である。

今回は3年前より公開している拙者のホームページ「[ELECTONE - NET](#)」(参1)の検証と、NETWORKでの実践報告、近未来への展望を書いてみたい。

「ELECTONE - NET」におけるNETWORK検証

1996年10月、ふっとしたきっかけでこのHP（ホームページ）を立ち上げることになった。夏休みにWindows 95を導入しインターネット環境が整った事、ブラウザが発達期に入った事、そして何よりも大きな動機付けがマイクロソフトの基本パッケージで簡単にHPを制作できた事である。

唯一苦労したのはFTPを使っのサーバーへのアップロードであったが、解説書を読みながら何とかクリアできた。

当時「エレクトーン」「ELECTONE」で検索してみると「ひろみーたのミュージックページ」(参2)米国発Louis氏の「THE ELECTONE ZONE」(ほぼ同時期の立上げ、後にNET上で親交が続く)(参3)の二つ程しか見当たらなかった。またインターネットではないがNifty(参4)でのフォーラムではエレクトーン会議室がたいへん活況を呈していた。

今はご存知のように百花繚乱、インターネットの1年は昔の100年ぐらいのスピード、というすごさである。

今回このHPを検証するにあたり初めてアンケートを実施した。インターネット上でどのように情報は広がるのか？またどういう方向に動くのか？一度総括してみたい。

実施期間 5月中旬より2週間

回答数 46

ELECTONE-NET アンケート

お名前は？(ニックネームでOK)

性別は？ 男 9(20%) 女 37(80%)

年代は？ 10代 3 20代 14 30代 15 40代 13 50代 1
60才以上 0

男女比率は2：8と女性が圧倒的に多い。年代別では20代・30代・40代が拮抗。30代・40代は主婦層が多いと思われる。男性は30代まで。

Mailアドレス(できればお書き下さい)

ほぼ全員が書いてくれる。信頼を感じる。

このHPをどこでお知りになりましたか？

検索・サーチエンジン 12(26%)

友人・知人から 10(22%)

他のHPからのリンク 8(17%)

雑誌 8(17%)

その他 8(17%)

「検索」からの来訪が一番多い結果となった。これは今のインターネットの方向性とピッタリ一致する。「友人・知人」という口コミも多い。「他のHPからのリンク」はNET社会ならではの特徴である。「その他」に書きこみスペースをつくらなかったのが、悔やまれる。

(複数回答3つまで可)	どのページがおもしろかったですか？	どのページが役に立ちましたか？
掲示板	25	17
友達の輪	9	5
EL900探検	19	21
エレクトーン曲集	13	29
エレクトーン博物館	7	5
お宝探偵局	8	1
世界の車窓から	4	7
トピックス	0	2
ひとりごと	14	3
ケイコにツヨシ	0	4
月エレ掲載曲	9	9
トヨタタイEL90/87	5	9
お役立ちソフト	7	6
パソコン戯画	1	0
Ryukei とのメール交換	8	9

役立ったものとしては「EL900探検・曲集」という、機能や曲検索などの実用的なものに投票が多く見られる。「掲示板」の人気は高く、インターネットならではの双方向でコミュニケーションがとれるコーナーとして活用されている。

エレクトーン関係の仕事をしていますか？

はい 25 いいえ 21

HPで知り合った仲間とメール交換しましたか？

はい 22 いいえ 24

はいと答えた方、どんな話題でしたか？(原文のまま掲載)

1. エレクトーンを習っている主婦さんとアンサンブルの話とか音楽の事から...その他色々!? 「友達の輪」から時々メールいただきます^^
2. 900 と PC 接続によって、なにが、できるか?・・・そのためには、どんなソフトが、いいか?他にどんなことを、しているか・・・など
3. 好きなエレクトーンプレイヤーについての話から、好きな音楽の話。音楽以外の話。障害のある方たちについて。など。
4. EL-70 の寄付先について・研修でお世話になった先生のメールアドレスを友達の輪で知り、お礼のメールを送りました。
5. エレクトーンを含めた音楽の話題。またこの掲示板の発言がきっかけで会ってお話をする事もでき、コンサートを依頼するまでになった。
6. 音楽用のソフトの使い方についてです。私は、教師ではないので、講習会にも参加する事ができず、1人寂しく、取説を見ながら楽譜を作っています。
7. はい (自分から二人、相手から二人。) 相手からのうち一人は実際に会いました。すっかり仲良しです。この前はその人の家に行って700についての機能を教えました。

HP 主宰者と来訪者の関係から横への広がりが見うけられる。実際に会っている事実は驚きである。

掲示板はよくご覧になりますか?

はい 30 いいえ 16

はいと答えた方、興味のある話題は何ですか? (原文のまま掲載)

1. EL - 900 & パソコンとか、コンサートや曲の話。なんでも楽しいよ!
2. 他の方がどんなことを、おもっているのかなあ~と・・・
3. いろいろな方々のお気に入りの曲について。エレクトーンで頑張ってるっしやる方の話。音楽を楽しんでらっしゃる方の話。エレクトーンに関したいろいろな情報収集。
4. PC とエレクトーンをつないで・・・とか、いろんなレポート
5. コンサートの話。(自分が見に行ったものは特に) エレクトーン、楽器自体の話。EL900 はココがいい、とか昔の EL はこうだったとか、、自分の書き込みへの返答。
6. EL - 900 の使い方やパソコンをつなげた時の使い方です。ちなみに c u b a s e を使っています。
7. トピックスは海外に居る僕にとっては、非常に良い情報源にもなっています。
8. エレクトーンを販売する仕事をしていますので一般の方々がどんなことを考えているのか、どんなことにも興味があります。

パソコンとエレクトーンに興味がある人が多い。このHPを見ているわけだからパソコンユーザーには違いないが、一歩進んだところでの使い方にとっても興味がある様子。

エレクトーンとインターネットを活用してできそうなことは？（原文のまま掲載）

1. 只今勉強中！XG - ワークスで四苦八苦・・・よくわかりません～。もっと教えてえ～！
2. インターネットでライブ演奏。MUMAの代わりにインターネットでダウンロード。PC向けの専用ソフトを開発して、もっと外部機器とのつながりが良くなる。
3. 他の人の演奏データなどを聴くことができる。時間がない時などレッスン会場に行かなくても見ていただくことができるといいなあと思います。
4. ダウンロードによって、月エレの曲の音色リズムが取り出せるといいですね。ミュージアムができることを自宅のパソコンでできればなと思っています。
5. まだ活用しはじめたばかり。現在はMIDIのデータをネット上で購入してそれを加工しレッスンに使っています。曲探しの情報をネットで検索しています。
6. インターネットから取り込んだデータを譜面化してレッスンに取り入れる。演奏やレジストデータのクリニックが離れていてもできること。遠隔レッスンをする。
7. 商品開発にも役に立つのではないのでしょうか。メーカーはユーザーの率直な意見を謙虚に受け止めるべきです。
8. 音色のデータを送るだけでなく演奏データを送って（友だちどうしやデモ演奏みたいなものまで）家でいながら演奏会が聞けたらいいな。
9. すでにやっているが、MDRのファイルをやり取りすることで通信セッションが出来ること。各パートを離れたメンバーが重ね録音できる。

データ配信の要望が多い。まだはっきりとした姿は見えない。

このHPの感想を何でもけっこうですのでお書き下さい（原文のまま掲載）

1. 世界中に広がるエレクトーン仲間の輪を感じます。エレクトーンの楽しさがあふれていると思う！
2. 毎日1回は見てます。HPの更新って大変ですよ。でも楽しみにしてる人が沢山いますので、これからもガンバッテ！
3. PCをあけると、見たくなる。楽しみ・・・
4. TOPページから音楽が流れたり楽しいページもあり、ためになるお勉強ページ？もありで内容が濃く見ていて飽きません。関連リンクも多いし更新もまめにされてるし。
5. エレクトーン関係のHPにいちばん始めにきたのがここでした。それ以来欠かさずHPチェックをする時はこのページを見ます。ひとりごとなども読んでいて楽しいです。

6. パソコンアレルギーの人にとってインターネットは取っ付きやすいし、またそれを利用してこのHPをみて、こんなたくさんの情報が一挙に得られるという感動があるとおもいます。次のステップとして、じゃあ、今度はエレクトーンとつないでみようと、思わせるきっかけになると思います。デザインもかわいいし、見やすいし、エレクトーン好き人間が、欲しい情報も満載だし、私はこのHPを気に入っています。
7. 仕事柄、エレクトーンの最新情報をどれだけでも持っているかが、結構重要だったりしていますので、情報源として活用させていただいています。
8. 重くて開くのに時間がかかります。もっと軽くしてください。
9. とても勉強になると思います。ありがとうございます。友達の輪...はヒットでした。お友達ができてとても嬉しかったです。これからも宜しくお願い致します。
10. はじめまして！鹿児島でシステム講師をしています。このHP、エレクトーンの事を色々話題にしているので、ちょくちょく見に来てました。メールする勇気がなくて...でも良い機会だなぁと思い、アンケートに答える事にしました。
11. 適度にユーモアもあり、何よりもエレクトーンへの愛情が感じられます。少し物足りないのは、チラシやポスターを掲載するときに、紹介のコメントが付くといいです。
12. エレクトーンを好きな方、音楽を楽しんでいらっしゃる方がこんなにたくさん！うれしいです。そして、何かわからないときはいつでも聞ける所がある事がとても心強いです。ネットにつなげる時は ELECTONE_NET をまず開いてから、他をサーフィンしてまます。これからも楽しみです。負担にならない程度にがんばってください。

はじめてのアンケートだったが、確実にファンが定着した喜びがある反面、責任の重さを感じる。これらの感想は私に対する強力な応援、糧としてとらえたい。

NETでは非常に情報がはやく伝達できる。またオープンな環境も大切であると考え。今後ますますNET上での双方向情報伝達・情報収集、(エンドユーザー、メーカー・団体など)が進むと思われる。

NETでの実践報告

事例1 ネットでの遠隔レッスン

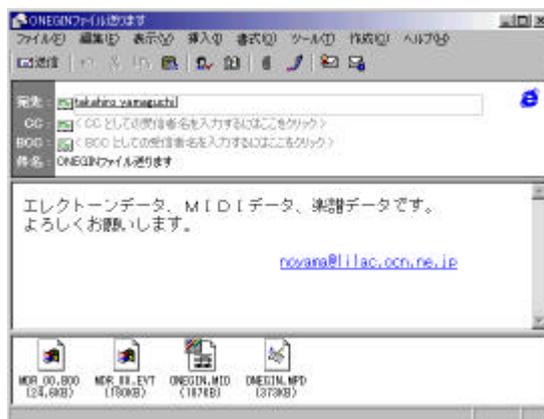
6分以内のクラシック曲の電子オルガンアレンジと演奏アドバイス、レジストレーションクリニックをネット上で行う。

曲はチャイコフスキーの「エフゲニー・オネーギンよりポロネーズ」に決まる。アレンジをどうするか？幸いにもこの曲はデジタル情報として「楽譜」「オーケストラ演奏」が1枚のCD-ROMに入ったものを持ち合わせる。(参5)

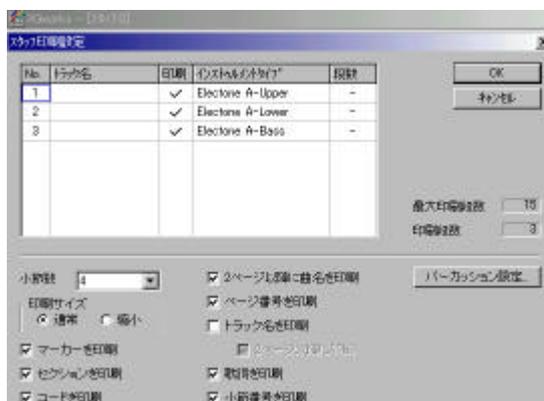
このソフトは譜面の位置にあわせて演奏が聞ける(MIDIデータではない)というすぐれものソフトである。つまりパソコン上でスコアリーディングが可能ということである。



まずE L 9 0 0 (参6)で粗方アレンジされたものを演奏録音し、電子メールの添付ファイルで送ってもらう。こちらではもちろんそれを吟味するわけだが、XG変換してパソコンに取りこむ事がポイントである。こうすることにより、どんな場所でもアレンジに対してのアドバイスが可能になる。どこのフレーズを優先するか、サイズは？テンポは？。



XG変換されたものを「XG - WORKS 3.0」(参7)を使い三段譜にしておくことも重要である。プリントアウトすれば作業が楽になる。



このときレジストレーション、演奏、譜面に関してはある程度無視してかまわない。EL900のXG変換はあくまで簡易変換であって、データを世界共通規格のSMFに直すことが使命であると、私は捉えている。これで独自の世界から大きく外の世界へ飛び出せる。だいたいアレンジが固まったところで、EL900用ファイルのやりとりが始まる。レジストレーションはリメイクして送り返すことも可能。最終的にはノートンションソフト(参8)で譜面が共有できれば完璧である。



これをリアルタイムでやるには光ファイバーなどの情報インフラが整わないと、現状では無理である。

事例2 音楽ユニット「Lemmon Mama」のネット上でのアナウンス

1992年より子供向けパフォーマンスを展開する、主婦5人組みの音楽ユニット「レモン・ママ」(参9)をネット上でアナウンスすることをヘルプする機会があった。

彼女達の音楽活動は最初は細々としたものであったが、地道な活動が認められ、最近では新聞・TVニュース・FMなどで取り上げられるようになり、「仕事」としての依頼もされるようになった。それまではアマチュア精神でやってきたようだが、やはりボランティアだけでは限界もあり、しっかりとしたアナウンスも必要である、と考え始めたときにネット上での告知を依頼されたわけである。

そこで私なりの経験を元に、ネットデビューの準備、進行、内容をまとめてみた。

- 1 メンバー2人にパソコンの初歩と、WEBのレンタルができるプロバーダー契約をさせる。当然メールアドレスを取得。名刺にメールアドレスが入るだけでも進歩である。
- 2 ホームページの内容作り。何を訴えたいのか？何を告知するのか？信頼を得るには？デザインは？当たり前なことだがコンテンツがすべてである。
- 3 ホームページ制作。サーバーへのアップロード。検索会社への登録。グループ名にふさわしいメールアドレスの取得。その転送作業。これらはすべて私が担当。

ホームページを持つことにより、誰もが個人での情報発信ができ、最新のソフトを使えば放送局までを手に入れたといっても過言ではない。まさにパーソナルキャストの時代である。

このグループの場合これにより活動が広がったか？といえば、まだ未知数であるが、インターネットという新しい媒体に乗っかることで、「先進的なもの」を手に入れた喜びは大きいようである。そしてそれが明日への活力になる。

ネット上での反応はまだこれからだと思うが、一度広がり始めればそのスピードは計り知れない。

Communicate (連絡する) Connect (繋ぐ) Create (創造する) これらの3Cを実践するにはホームページでの情報発信が一番実感できる。

将来への展望

情報が簡単に手に入る時代、これから私たちのNETWORKのスタイルはどうなっていくのであろうか？空想に近いもの、実験段階のもの、一部サービスが始まっているもの、などいろいろあるが列記してみたい。

1 データ購入

まず電子オルガンで考えてみると、演奏データ、レジストレーションデータ、譜面データ、これらはすべてデジタルデータであり、NETを使い配信することは簡単なことである。世界標準データであるMIDIデータの配信はもうすでに実用化されている。次に録音されたソース(MD, CD-ROMなど)のNET上での配信も技術的には実用化されており、メーカーがしのぎを削ってスタンダードを目指している。RealAudio形式(参10)またはMP3形式(参11)またはTwinVQ形式(参12)か？これらの配信でクリアされるべき問題点は、むしろ著作権や版權であり、コピーが簡単であるがゆえのデジタルコンテンツの泣き所とも言える。がしかし、法整備も進んできたようなので期待したい。

2 投票システム

デジタル処理された作品はNETで簡単に共有できるわけで、「優劣をつける」という観点でとらえれば、多くの人に参加できるシステムはたいへん喜ばしい。もっと双方向のスピードが上がれば、リアルタイムで演奏コンクールへの投票など、新しいスタイルの提案ができるかもしれない。

3 受験システム

世の中の資格受験をみると今はパソコン関係ものが人気が高く、その数100とも言われる。一方われわれ音楽関係で見ると(財)ヤマハ音楽振興会主催(参13)のグレードシステムが規模が一番大きいものの、最近は受験者数の減少傾向にある。音大受験も然り。昨年度より(社)音楽電子事業協会主催(参14)のMIDI検定が始まり注目度は高いように思われる。(第1回申込者数 約3000名)そこで提案だが、ネット上でもっと気楽に参加できるグレードシステムはどうか。とくにジュニア層の拡大こそ急務である。認定会場または個人で、パソコン上に出題される問題をクリアしていくという、少しゲーム仕立ての方法はどうか。聴音だって可能である。演奏力判定をどうするか、本人確認を

どうするか、などクリアする点が多いが、私は演奏はデータの送付でもよいと思う。演奏データでの判定は jet 全日本エレクトーン指導者協会 (参 15) で昨年度より F D フォーラムとして実施している。

4 ストリーム配信

「今年のコンクールの結果はどうだった?」「全日電研 (参 16) の講演、もういちど聞きたいんだが」など、人の記憶は曖昧であるし、人の気持ちはわがままである。

今でも「ビデオ」という記録媒体はあるが、皆がすべてのものを共有してるわけでもなく、思い立った時にすぐに情報が手に入るという点で、インターネットが活用される時代が来るであろう。

すべての記録は映像も含めてデジタル化されて蓄積され、(個人でする必要はない。蓄積を専門とする業者も現われる) ストリーム技術を使えば、インターネット上で見たいときに見たいものを、自宅のパソコンで取り出しに行けば良いわけである。

まとめ

「見る」から「する」へ。双方向こそがこれからの主流

株価が1万ドルを越えたアメリカでは、何が経済を引っ張っているか?

私は専門家ではないが、ずばりインターネット関連とエンターテイメントだと思う。インターネットは個人でも放送局になりえたが、メディアの中心であるテレビ局も双方向への準備を着々とすすめている。

テレビには衛星放送・CATV という強力な武器があり、スピードに関してはダイヤルアップ中心のインターネットより先んじている。この二つは融合するのか? 「メディアの窓」はどこが取るのか? 勝負の行方は混沌としているが、最後は消費者が決めるであろう。

しかしどんなにマルチメディアが発達しても中身(コンテンツ)は人がやるであろうから、芸術が減びることはない...また価値も高まる...だから慌てる必要もない...という考え方もある。

ただ1901年レコードができ、1982年CDが登場、そして今デジタル技術が百花繚乱。これらをうまく取りこむ事が必要であると私は考える。

そしてこれらのスピードはものすごく速い。インターネットは根気強さと才能・アイデアがあれば、だれでも簡単に情報発信できる。

曲を作る、オーケストラを雇う、発表場所を探す。これらがちょっとしたマルチメディアの技術を習得することで、誰にでもチャンスはめぐってくる。また時間の節約になる。そして一番すばらしいのは双方向ということである。直接的であるが故の弊害もあるが、

世界中から反応がすぐに返ってくる。

今回はインターネットという「通信」の世界を中心に検証したが、配信という観点から言えば「放送」のデジタル化も急速に進むと考えられる。

C S放送を使った予備校の授業はすでに始まっているし、生中継はテレビのお得意の分野である。クイズ番組にリアルタイムで参加したり、映画を見ながら俳優のプロフィールを調べたり、と「見る」から「する」へ向かうであろう。

そこでは「放送」と「通信」の枠がなくなり、意識することさえないであろう。

「放送」は一個人ではむづかしいが、「通信」はたいへん小規模なものである。

しかも簡単で手がけやすい。私はインターネットの世界をわずか3年しか体験していないが、その中で養われたものは過去の10年のコンピューター経験に匹敵するぐらいの価値を持っていると実感する。

NET上では新しいCommunityが形成され、その中でCommunicationし、Connectionができ、今までとはちがった文化がCreateされる。

- (参1) ELECTONE - NET <http://www.hi-ho.ne.jp/ryukei/>
- (参2) ひろみーたのミュージックページ <http://www.moto-unet.ocn.ne.jp/~hiromita/>
- (参3) THE ELECTONE ZONE <http://www.electone.com/>
- (参4) Nifty Forum <http://www.nifty.ne.jp/>
- (参5) [LASER LIGHT] 米国 DELTA MUSIC INC. 輸入元 - 日本コロンビア (株)
- (参6) ELECTONE HOMEPAGE <http://www.yamaha.co.jp/product/el/>
- (参7) XG - WORKS <http://www.yamaha.co.jp/product/decbx/software/xgworks3/>
- (参8) ミュージカルプラン <http://www.musicalplan.com>
- (参9) レモンママ <http://www.bea.hi-ho.ne.jp/harupi/>
- (参10) Real Audio <http://www.real.com/>
- (参11) MP3 <http://www.mp3.com/>
- (参12) TwinVQ <http://www.wnn.or.jp/wnn-sound/twinvq/>
- (参13) (財)ヤマハ音楽振興会 <http://www.yamaha-mf.or.jp/>
- (参14) (社)音楽電子事業協会 <http://www.amei.or.jp/index.html>
- (参15) jet 全日本エレクトーン指導者協会 <http://www.yamaha.co.jp/jet/>
- (参16) 全日本電子楽器教育研究会 <http://www.emies.gr.jp/index.html>